

# 平成29年度 姉妹校等留学プログラム

## カナダ国際交流プログラム

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立南高等学校／海外研修（2名）

### (2) 渡航先

国／都市：カナダ／バンクーバー

外国の高校：Point Grey Secondary School

### (3) 期間

平成30年2月10日～平成30年2月16日（7日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

姉妹校 Point Grey Secondary School との相互訪問・交流を通して生徒同士、教員間の絆を深める。異文化環境に身を置くことで、広い視点で考える意識を醸成するきっかけを作る。また、国を超えたグローバルな問題に気づくことで、将来国際社会で活躍しようという意識を高める。

### (5) 活動内容

○Point Grey Secondary School を訪問し、昼は現地の高校で学習する。日本語学習クラスにも参加し、南高校の紹介や学校生活の紹介を行ったり、日本語学習の支援をする。

○宿泊は Point Grey Secondary School の生徒宅またはバンクーバー市民宅にホームステイし、現地の生活を体験する。

○現地の公共施設・文化的施設などの社会見学を行い、バンクーバーの歴史を学ぶ。

### (6) 実績・成果

○派遣高校生 C I さん

#### ・「Experiences in Canada」

私は 2018 年 2 月、6 日間のカナダ国際交流プログラムに参加し、ホームステイや姉妹校での授業体験など様々な経験をしました。その中の一部を紹介します。

#### ・ポイントグレイ校での授業

プログラムの6日のうち、2日はポイントグレイ・セカンダリースクール（写真右）の授業に参加しました。ポイントグレイ校で最も印象に残ったのは、授業がいつもにぎやかでとても活発だったことです。先生が何か問いかけるとあちらこちらから答えが返ってきたり、座って先生の話聞くのではなく実際に体を動かす授業が多かったりと日本とは異なる授業風景に驚きました。また、



日本では当たり前と思われていること、例えば部活で夜まで学校に残ることなどもカナダでは「考えられない！」といわれるものが多く、文化が違うと日々の生活も全く違ってくると実感しました。

#### ・たくさんの文化が共存していたカナダ

多文化主義国家であるカナダでは、様々な国、地域の文化が共存している様子を色々な場面で学びました。ちょうど2月は中国の旧正月の時期だったので、街のあちこちで中国語で新年を祝うお店を見かけてとても驚きました。右の上の写真はショッピングモールにあった中国の旧正月を祝う装飾です。カナダでは1月1日だけでなく中国、イスラム教などたくさんの文化の新年を祝うそうです。



また、カナダでは至る所でファーストネーションの建造物を見かけました（写真右下）。地元のお店では、“Native Preserve” と書かれたファーストネーションのアートのグッズも販売されていて、カナダではファーストネーションをととても大切にしているのだと感じました。



私のホストファミリーはイラン出身でカナダへ移住した方でした。ホストファミリーに、文化の違いによって困ることないかと聞いたら、カナダでは文化の違いはあるけれど、お互いそれを認め合っているから過ごしにくいと思うことはない、と教えてもらいました。

この6日間で、たくさんの人と関わりたくさんを知り、自分の視野を広げることが出来ました。これらの貴重な経験を将来に生かしていきたいです。

### ○派遣高校生 ROさん

#### ・「多文化主義を意識させない多文化の国・CANADA」

私は2月10日から5泊7日、横浜の姉妹都市であるカナダ・バンクーバー研修旅行をした。私が通う南高校は、SGHに指定されており、国際交流の機会が多く設けられている。私が参加した「カナダ国際交流プログラム」はその中の一つだ。姉妹校である Point Grey Secondly School の生徒と交流することができ、毎年お互いに学生を派遣している。私は、昨年11月に私の家に交換学生として滞在したEさんの家にホームステイをした。日本に来た際に「Rさんのホストファミリーをしたい」と言ってくれていたのだ。

私がホームステイ中、特に心掛けたのは、ゲストではなく家族の一員として過ごすことだ。Eさんのご両親は、「Dad、Mamと呼んでもいい？」という私の問いかけに笑顔で答えてくれた。Eさんとは、みなとみらいで過ごした思い出について話しながらドライブをしたり、イギリス出身のMamは、自国式のアップルパイの作り方を教えてくれる中で私がりんごの皮をむく様子を笑顔で見守ってくれたり、Dadが食事を作ってくれるときは手伝いをしながら『Opportunity cost=機会損失』について意見を交わしたり、ホストファミリーとの距離の近さを感じ、このプログラムに参加できたことを幸せに思うことが幾度もあった。夕食では横浜の魅力や政治の話が多く挙がり、カナダが公用語を二つ持つ多文化主義と変化していった過程を聞いた。帰国後ふと、Eさんの曾祖父はドイツから移住してきたという話を思い出し、様々な文化が身近にある国なのだ実感した。カナダ滞在期間は異なる文化背景が自然と見えるため、全く意識していなかったのだ。

滞在中、Point Grey 校で2日間授業体験をした。カナダでは16歳から車の運転免許が取れるそうで、Eさんが運転する車で学校に通ったのは新鮮だった。彼女が先生に交渉してくれたため、私は興味があった English Second Language (ESL) を受けることができた。ESL は英語を母語としない生徒のためのクラスであり、カナダのような多文化社会では、文化や社会、特に言語で困っている生徒どのような取り組みをしているのか知りたかったのだ。横浜市は、日本語支援拠点施設『ひまわり』が昨年設立するなど、そのような取り組みに積極的だが、ESL のようなサポートがあると聞いたことはなかったので、私の目には魅力的なプログラムに映った。しかし、授業に参加して、そのイメージは途端に崩れた。肝心の生徒は授業中にも拘らずゲームに夢中で、それに対して先生は注意をしない。私は、生徒たちはどのような気持ちで授業を受けているのか疑問に思い一人ずつに話を聞いた。授業態度とは裏腹に、フレンドリーで気さくな子どもたちだった。多くの生徒が中学生で、カナダに来てまだ半年ほどだという。どうして授業中にゲームをしているの？と聞くと、“退屈だから・・・”。確かに、授業は英語の本を黙々と読み、指示された場所を音読するという内容だった。せつかく英語を学ぶ機会があるのだから、学ぶ意欲を掻き立てられる授業を提供するべきだろう。しかし今思えば、中国人の中に1人混ざっていた日本人の生徒は真剣に本を読んでいた。授業態度も文化の一部で、あの光景も多文化大国・カナダならではあったのだろうか。